

デジタル田園都市国家構想交付金事業の効果検証に係るご意見等について

資料5

No.	事業名	項目	委員名	内容	回答
	つながる茨城チャレンジフィールドプロジェクト	ご意見・ご質問	清山委員	・関係人口の定義と算出方法について、総務省の定義は分かりますが、これを具体的にどのように算出しているのでしょうか？	関係人口の定義については、総務省がHPにより公表している『移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる人々』としており、その算出方法につきましては、東京圏でのセミナー形式やマルシェ形式でのイベント、副業プロジェクトに参加してくれた方など、県や各市町村が実施する関連施策により把握された人数を計上しております。
			高木委員	・関係人口の定着率や長期的な効果は？ ・地域コーディネーター養成講座に県外2名参加とあるが、全体の育成状況と効果は？	・関係人口の定着率については、現状、定量的には把握できておりませんが、関係人口の方々においては「いばらきふるさと県民」にご登録いただくなど、本県との関係性を継続いただいていると考えております。関係人口と本県のつながりを継続していくことが将来的な移住につながるかと考えているため、引き続き本県と関係人口の接点を提供し、将来的な移住者の増加を図ってまいります。 ・地域コーディネーター養成講座の修了生は合計29名（R4：11名、R5：18名（うち県外参加者2名））となっております。受講生以外にも、過去県事業に関わる中でコーディネーターの役割を担っていただいている方もいる状況です。コーディネーターの方には、iBARAKICK!で、県内企業と県外人材をつなぐ支援をしていただくなど、県内外のつなぎ役として重要な役割を担っていただいております。
			吉田委員	・「移住者・二地域居住者数」が爆発的といつていいぐらいに増加しており、評価されるが、「関係人口数」の伸びとの相関がないように思われる。「移住者・二地域居住者」の把握の方法やその実態について、また、関係人口との関係についてご教示いただきたい。	KPI①「移住者数・二地域居住者数」は県や市町村の相談窓口を通じて移住された方など、県・市町村の事業を通じて移住された方を計上しております。（市町村分は県からの照会により把握しています。）また、関係人口から実際の移住へつながるまでには、その地域への訪問や活動などにより、数年をかけて地域との関係性を深める必要があるため、関係人口数の増加と「移住者数・二地域居住者数」の増加において、必ずしも強い相関関係とならない場合もあると考えております。そのため、引き続き関係人口の創出・拡大に取り組むとともに、移住につながる定量データの収集に取り組んでまいります。
		評価できる点	高木委員	・関係人口の創出・拡大に向けた多角的な取り組み ・副業・兼業の活用促進による新たな人材獲得	
2	わくわく茨城生活実現事業	ご意見・ご質問	清山委員	・他の就職サイトとの違い、特徴、周知方法などを教えてください。最低賃金未満の求人が掲載されていません。	いばらき就職チャレンジナビは、茨城県内に事業所がある企業のみ登録可能な就職情報サイトとなっております。企業が利用する場合、求人情報等を無料で掲載できることや、移住支援金対象求人掲載できる等の特徴がございます。また、求職者にとっては、各種認定制度を取得した「働き方改革推進企業」や「女性が働きやすい企業」等で条件検索ができることが特徴となっております。周知方法については、SNS広告の実施や、県内外の大学で開催されるUターンセミナーでのチラシ配布等を行い、利用者増に努めております。最低賃金未満の求人を掲載している企業については、過年度に求人掲載後、情報を更新していないことが考えられるので、最新の情報に更新を行うよう登録企業に呼びかけて参ります。
			高木委員	・地域課題解決型起業支援事業について、起業後の事業継続率や成長状況は？ ・補助金がなくても持続可能な事業となっているか？ ・起業後のフォローアップ体制の現状と今後の予定は？	・起業後の事業継続率は100%であり、上場企業と業務提携するなどの企業も出てきている。 ・問い合わせの段階で、創業専門のコーディネーターへ繋ぐことで、事業計画、資金計画のブラッシュアップを図り、持続可能な事業を申請いただいている。 ・件数支援をしているコーディネーターに引き続き継続してフォローアップしていただいております。今後も引き続き実施していく。
			高田委員	・交付金がR4からR5では、だいぶ増額されているが交付金使途をご教示いただきたい。	R4年度からR5年度にかけて、移住支援金に係る子育て加算が30万円から最大100万円に引き上げられ、メディア等で大きく取り上げられたこともあり、当初計画の2倍近い申請相談が寄せられたことから、年度途中で予算を増額対応し、市町村へ追加交付をしました。
		吉田委員	・移住就業者と移住起業家への支援金の要件及び支援金の内容についてご教示いただきたい。	移住就業者に係る「就業要件」につきましては、以下①～③のいずれかの要件に合致した方が対象となります。 ①就職に関する要件（県が運営するマッチングサイトに掲載された対象中小企業等に就業した方または、プロフェッショナル人材事業もしくは先導的人材マッチング事業を利用して就業した方） ②テレワークに関する要件（移住元での業務を引き続きテレワークで行う方） ③関係人口に関する要件（各市町村が独自に設定した要件 例：移住体験ツアーなど県や市町村が実施する事業への参加者） 移住起業家に係る「起業要件」につきましては、地域課題解決型起業支援事業に係る起業支援金の交付決定を受けた方が対象となります。 また、支援金の内容につきましては、2人以上の世帯の場合にあっては100万円、単身の場合にあっては60万円を支給しております。なお、18歳未満の世帯員を帯同して移住する場合は、一人につき最大100万円を加算して支給しております。	
評価できる点	高木委員	・移住支援金制度の柔軟な改定による支援強化 ・起業支援による新規事業創出の促進			

3	県北ニューツーリズム推進事業	ご意見・ご質問	高木委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロングトレイル整備の進捗状況と今後の展望は？</li> <li>・地域経済への具体的な波及効果は？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・想定距離約320kmに対し、令和5年度末時点で約220kmの整備が完了しているところ。</li> <li>・今後は、新規コースの整備を行うとともに、ロングトレイルコースや周辺コンテンツを活用した、インバウンド誘客を促進することで、観光消費額拡大を図っていく。</li> <li>・登山アプリと連携したデジタルスタンプラリーや各種イベント等の実施により、令和5年度の来訪者数は45,249人となり、これを観光客動態調査を基に試算した結果、経済効果は約3.8億円となる。</li> </ul>
		評価できる点	高木委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロングトレイルを活用した新たな観光コンテンツの創出</li> <li>・地域資源を活かした体験型観光の推進</li> </ul>	
	続・ひたちなか大洗リゾート構想推進事業 ～オンリーワンの稼げるリゾートを目指して～	ご意見・ご質問	高木委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際大会の経済効果と今後の展開は？</li> <li>・「花絶景」をコンセプトとした新戦略の具体的な内容は？</li> <li>・インバウンド向けの施策の具体案は？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R5年のカジキ釣り国際大会は多くのメディアで取り上げられ、約3.9億円の広告換算額を計上しました。また、陸上イベントには約7,000人が来場し、地域への誘客と、それに伴う観光消費の向上に寄与したものと考えております。今後、さらなる大会の発展と地域への定着を目指しており、メキシコのカジキ釣り大会との交流や、大会参加者による地域の店舗の利用を促す「サポーター店制度」の導入を進めています。</li> <li>・地営ひたち海浜公園のネモフィラやコキアが、地域において最も有名で、非常に有力なコンテンツであることから、これを活かした「花絶景」というコンセプトを軸に、地域のブランディングを進めることとしております。「花絶景」という言葉と地域を結び付け、エリア周辺の飲食・宿泊施設への送客数・回遊確率を高めたいほか、今後、さらなるブランド強化を目指し、花絶景に連動したコンテンツの開発も実施してまいります。</li> <li>・現在実施している、カジキ釣り国際大会や花絶景の事業において、海外向けにも発信力のあるインフルエンサー等を活用し、インバウンドへの情報発信を強化しております。まずはこれらによる地域の魅力を発信してまいりたいと考えておりますが、今後、さらに誘客に繋がるような施策を検討し、実施してまいります。</li> </ul>
		評価できる点	高木委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カジキ釣り国際大会を核とした地域ブランディング</li> <li>・渋滞対策実証実験など具体的な課題解決への取り組み</li> </ul>	
5	スタートアップ・エコシステム拠点都市推進事業	ご意見・ご質問	跡部委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SUの資金調達、雇用が順調に伸びており、茨城でSUが成長するというイメージを持てるのは大きな強みだと思ふ。一方、SUの成長に伴い、ラボ・オフィスを拡大したいが施設がなく、東京や神奈川に出ざるを得ないケースはあるのではないかと。そのようなSUの流出はあるか、施設新設（もしくは既存施設の活用）の支援取り組みはあるか、お教えください。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SUが県外に営業拠点としてオフィスを設立しても、ラボや本店機能はそのまま茨城に残しているケースは多く見受けられます。また、つば市市内において民間企業などによるオフィスやラボの整備が進んでおりますので、こうした動向も踏まえながら県としての今後の支援を検討してまいります。</li> </ul>
			高木委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援によりどのような革新的なスタートアップが生まれたか？</li> <li>・大学や研究機関との連携状況は？</li> <li>・成功事例の可視化と情報共有をさらに進めるとより良いのでは？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外のビジネスプランコンテストで日本のベンチャー企業として初めて優勝した超熱熱素材の製造・販売などを行う企業や10億円を超える大型の資金調達を実現したレアメタルのリサイクル事業を行う企業などが誕生しております。</li> <li>・筑波大、産総研等の連携による「つくば産学連携強化プロジェクト」に参加し、令和5年度は大学と研究機関等との共同研究を19件支援しております。</li> <li>・専門誌への記事の掲載やTSUKUBA CONNECTといった県内外の投資家を呼び込みマッチングするイベントでの紹介などを行っておりますので、引き続き様々な場面での成功事例の情報共有について努めてまいります。</li> </ul>
			吉田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「支援により……1億円を達成した企業」は、毎年度2社を目標としているが、実績はR5では12社と大きく超過している。評価されるが、目標値が低めのようにも思う。「支援により資金調達を達成」の意味がどのような支援がどのように資金調達に結びついているのかの実態を含めて、目標値設定のあり方についてご教示いただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「資金調達1億円を達成した企業」については、目標を2015～2018年度までの過去4年の実績値の平均1.5社/年を上回る年2社と設定しております。当時は1億円の資金調達を行うことは容易なことではなかったため、目標値として低過ぎるということもなかつたと考えております。</li> <li>一方で、専門家によるビジネスプランの策定支援や、投資家や大企業の投資部門が参加するピッチ機会の提供など、各社の課題に対応した支援を行ってきた結果、昨年度は目標値を大きく上回る12社の資金調達に結びついております。</li> </ul>
		評価できる点	高木委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・切れ目のない支援体制の構築</li> <li>・海外展開支援による成長促進</li> </ul>	
6	高度IT人材等育成・新事業創出支援事業	ご意見・ご質問	清山委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題解決、新規事業起上げ件数は年度内に結果が出なくともカウントしているのか、成果が出た完了件数でしょうか？</li> <li>・支援した企業が翌年度以降に出した成果もカウントして良いと思います。</li> <li>・受講者数の男女別人数およびスキル到達者数が少ない理由</li> <li>・ニーズがあるのに受講者数と求められるスキルレベル到達者がいないのであれば、その問題解決をどのように図るか、方針などご説明いただければと思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・翌年度に実施するアンケートで「実施できた」「実施の予定がある」と回答した企業をカウントしています。</li> <li>・応募時に性別の回答を求めているため、女性の受講者数は把握しておりません。</li> <li>・スキル到達者が少ない理由としては、講座の離脱者が多く、講座を修了できない方がいたためです。途中離脱を防ぐために、受講者へ事前学習のEラーニングを提供し、データサイエンスの分野に触れたことがない方も受講しやすい体制を整え、受講者のフォローアップ体制を強化し、スキルレベル到達者が増加するように取り組んで参ります。</li> </ul>
			高木委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・育成された人材の地域での活用状況は？</li> <li>・育成した人材と地域企業のマッチングの仕組みはどうか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データサイエンティスト育成講座については、企業の従業員等に対して、データサイエンスのスキルの修得を行っており、地域単位での活用というような仕組みではございません。</li> <li>・企業の従業員等が受講する講座になっており、マッチングについても現状では実施しておりません。</li> </ul>
		評価できる点	高木委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データサイエンティスト育成の取り組み</li> <li>・中小企業の人材育成支援</li> </ul>	

7	いばらきサイクリストリズム推進強化事業	ご意見・ご質問	高木委員	・サイクリスト宿泊者数増加の要因分析は？	サイクリストにやさしい宿の認定施設数は計画策定時から順調に増加しており、全県では令和2年度に25施設だった認定施設数が令和5年度には71施設まで増加している。加えて、認定施設が実施するサイクリスト向けサービスをサイクリストに発信力の高いインフルエンサーを活用する等して雑誌やWEB、SNSで広報するとともに、当該施設を利用した滞在型モデルプランの策定を行った結果、認定施設の認知が向上し、宿泊者数も増加した。
		評価できる点	高木委員	・サイクリストにやさしい宿の認定施設増加 ・インバウンド向けの取り組み強化	
8	いばらきeスポーツ産業創造プロジェクト	ご意見・ご質問	跡部委員	・eスポーツの世界市場は拡大している一方、国内・地域での実感としては少し遠い感がある。主催開催の推進だけではなく、周辺技術・デバイス開発と世界市場への売り込み等、産業全体としての取り組みがあれば、お教えください。	茨城県では、産学官が連携して、本県でのeスポーツの一層の振興を図ることで、関連産業の活性化や新産業の創出、さらには全国へ向けた茨城の魅力発信につなげることを目的として、「いばらきeスポーツ産業創造プロジェクト推進協議会」を2019年に設立し、活動を続けております。世界においては、サウジアラビアなどで高額な賞金を出すeスポーツイベントが開催されたり、10Cが新たなeスポーツイベントの設立を発表するなど、大きな盛り上がりを見せているところです。一方で国内においては、賭博法、風営法、景品表示法などの規制により、大規模な賞金を出すようなイベントが開催されておらず、世界と比較して盛り上がりには欠ける感はあるかと思えます。しかし、コロナ禍が明けた昨年度あたりから、国内でも様々なイベントが開催されつつあり、世界の動きと対応して盛り上がりを見せつつあるものと認識しております。協議会としては、こうした動きを捉え、会員企業同士の交流を深めることで新たなビジネスの創出に繋げていくとともに、eスポーツコンテナハウスやゲーミングマウスパッドを開発する企業が現れていることから、会員企業間のビジネスマッチングや県関係団体（グローバル機構等）との連携を図ることで、世界市場への売り込みを検討してまいりたいと考えております。
			清山委員	・表の数字の見方について、eスポーツの関連産業へ進出する事業者数は26事業者から9事業者に減少したのか、それとも26事業者から9事業者増えたのか？ ・eスポーツ関連事業者の関連売上は伸びているのでしょうか？事業者の数だけでなく当該産業の売上高の伸びも大切な指標だと思います。	・表の数字につきましては単年度の増加分を記載しております。eスポーツの関連産業へ進出した事業者数は、R5年度1年間だけで新たに9事業者増え、5年間累計で64事業者増加しております。 ・県内のeスポーツ関連事業者へのヒアリングしたところ、eスポーツ関連産業に参入することでのメリットは、雇用数の増加や福利厚生の上昇（社内でのコミュニケーションの増加）などであり、現時点では直接的な売上にはつながっていないと聞いております。一方、委員ご指摘のとおり、関連売上の伸びは重要な指標であると考えておりますので、引き続き、関連事業者とのヒアリングを踏まえ、先進県の取組も参考にしながら、eスポーツ関連産業の売り上げが伸びるような取組を進めてまいりたいと考えております。
			高木委員	・eスポーツ関連産業の具体的な成果と課題は？ ・地域経済への波及効果はどの程度か？ ・eスポーツ競技者からチーム編成のハードルの高さの声を聞く。1チームで最低〇人を県内在住者・県内学生・県内通勤者などとする、参加数も増え、より裾野も広がっていくのは？	・eスポーツチームの設立を行う企業や、関連製品（ゲーミングマウスパッド、ゲーミングチェア）を開発する企業、eスポーツを軸とした宿泊施設やカフェの運営を始める企業などが現れるなど、着実に成果が出始めていると考えております。一方で、県内においてeスポーツ関連事業を収益としている企業は把握できておらず、いかに収益を生み出す事業としていくのが今後の課題であると考えております。 ・上述のように、eスポーツ産業に進出する企業が現れ始めている段階であること、eスポーツ産業の収益化が図られていないことから、現時点において、地域経済への直接的な波及効果は把握できていないものの、eスポーツを介した雇用確保などの間接的な効果が現れはじめております。 ・チームでの参加を必須とするタイトルの場合、委員ご指摘のとおり課題があると考えております。いただいたご意見を踏まえ、より多くの方が参加しやすいよう検討してまいりたいと考えております。
			吉田委員	・KPI②の「民間主催の……大会の集客数」が前年度まで伸び悩んでいたが、R5では大きく集客数を伸ばしている。民間主催の実態や伸びた理由・背景をご教示いただきたい。	・これまでは法人や行政が主催するイベントが大半でしたが、R5年度には県社会福祉協議会などの関係団体や個人（ゲームコミュニティ）、教育機関などが主催するイベントが増加しております。新型コロナウイルス感染症が5類に移行し集客イベントが活性化したことに加え、IPホルダーがイベント開催のガイドラインを策定したことで個人でもイベントが開催しやすくなったことなどが理由と考えております。
		評価できる点	高木委員	・eスポーツを活用した新たな産業創出の試み ・多様な年齢層への取り組み	

9	県北地域牽引産業・中核企業創出事業	ご意見・ご質問	清山委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大変重要な施策だと思います。支援により年間受注金額や産学連携件数が目標を上回る伸びを示しているのは評価できる。産学連携は産業競争力強化に有効だという結果がすでにできているのか、それとも成果はこれからでしょうか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に、新製品の開発や、既存製品の価値向上に繋がった事例が出てきております。また、これを契機に大学との交流が継続している企業が多く、企業の研究開発の活性化にも役立っているものと考えます。</li> </ul>
			高木委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新分野進出に向けた具体的な成功事例は？</li> <li>・支援による年間受注金額増加の内訳は？</li> <li>・成功事例の横展開の推進予定はあるか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新分野進出についてですが、宇宙機器分野参入に向けた企業の自発的活動に繋がりました。具体的には、連携体の企業数社が中心となり、超小型人工衛星構体に関する共同開発や展示会出展、大学プロジェクトとの連携等に取り組んでおります。</li> <li>・年間受注金額増加の内訳について、詳細な把握はしていませんが、受注金額の増加については案件数の増加がその要因となっております。</li> <li>・成功事例の横展開については、連携体の勉強会や総会で、新分野進出等の先行事例紹介を実施してきたところであり、引き続き連携体のHP等も活用しながら取り組んでまいります。</li> </ul>
			吉田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「支援による年間受注金額」が毎年度目標値を大きく超えて実績を示しているが、目標設定の考え方（上方修正すべき？）や事業体の営業実績に占める受注金額のウエイト等を分かる範囲でご教示いただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標設定の考え方につきましては、3年目の年間受注額が当事業の年間予算額を超えることを目標にし、それを達成するために毎年度500万円ずつの増額としました。</li> <li>・事業体は個別企業の集まり（連携）であり、個別企業ごとの営業実績は把握しておりませんので、「事業体の営業実績に占める受注金額のウエイト」をお示しすることは困難となっております。</li> </ul>
		評価できる点	高木委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分野特化型連携体の活動支援</li> <li>・産学連携による研究開発支援</li> </ul>	
10	外国人材活躍促進事業	ご意見・ご質問	跡部委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人材活用の問題は、本人や家族への教育や、受け入れ側の異文化理解・変化の受容が必要。特に、受け入れ実績のある企業や地域による経験やノウハウの共有機会や、在留外国人コミュニティの形成と地域との交流に効果があると思う。そのような、就労や生活を包括した支援があればお教えください。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受入れ実績のある企業における優良事例を共有するため、事例集を作成するほか、モデルとなる企業にセミナーへ登壇いただき、ノウハウの共有を図っております。</li> <li>・県としては、人材の確保・育成から生活・教育環境の整備に至るまで、あらゆる施策を推進しているところであり、生活も包含した取組については担当課が異なりますが「IBARAKIネイティブコミュニケーションサポーター」制度により、外国人コミュニティで活躍する人物をサポートとして認定し、母語による支援を行うといった取組みがございます。</li> </ul>
			清山委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人材を活用する場合、就労・生活面での一体的な総合支援は不可欠だと思います。</li> <li>・モデルケースとなった方々の処遇水準について、年取等の労働条件について教えてください。</li> <li>・モデルケース人材が目標値を下回るが、県内大学の留学生はこの対象に含まれるか？もし含まれるのであれば、県内に留学生が多数いるのに、なぜこの数値にとどまるのでしょうか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業のみならず、関係他部局の事業も併せて、人材の確保・育成から生活・教育環境の整備に至るまで、あらゆる施策を推進しているところです。</li> <li>・処遇水準について、マッチングした際の求人条件の例は次のとおりです。</li> <li>・介護（特定技能）1日8時間勤務・週休2日 月給20万円</li> <li>・製造業（技人国）1日7.75時間勤務・年間休日97日 月給20万1千円</li> <li>・IT（技人国）1日8時間勤務・週休2日 月給25万円</li> <li>・留学生が卒業後に在留資格「技術・人文知識・国際業務（技人国）」へ転換する事例は含んでおりますが、留学生のアルバイト等は含んでおりません。</li> <li>・多数の留学生がいながら目標値を下回っている理由としては、県内留学生に対して県内企業の情報提供や効果的な就職支援を十分に実施できていないことなどが考えられます。このような課題に対応するため、県では県内大学や経済団体などと連携して、令和6年8月に茨城県留学生就職促進コンソーシアムを設立したところであり、人材育成の場である大学、人材を受け入れる企業、双方をつなぐ行政が連携・協働して、より効果的に留学生の県内就職を支援する体制を構築してまいります。</li> </ul>
			高木委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職マッチングモデルケース創出人数が目標に達していない理由は？</li> <li>・外国人材の定着率や満足度はどうか？</li> <li>・外国人材の長期的なキャリア支援体制の構築の予定はあるか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・KPIとしては、5年間で368件のマッチングを目標としております。R5年度には92件マッチングを実現いたしましたが、コロナ禍の水際対策の影響でマッチングを進められない時期があったため、5年間の計画期間全体を通じては目標に達していません。</li> <li>・満足度や定着率については、必要に応じて受入れ企業やマッチングした人材からのヒアリングを実施しており、複雑な在留資格制度へのアドバイスなどについて好評をいただいているほか、企業によっては複数回マッチングに至るなど、センターを活用いただいております。</li> <li>また、ヒアリングを通じて、マッチングした人材の離職や失踪といった話も聞き及びません。</li> <li>・さらに、定着に向けた支援として、外国人材の受入れ企業向けに外国人材との接し方等を案内するなどの取組も行っております。</li> <li>・外国人材の長期的なキャリア支援としては、これまで介護分野に限って実施していた育成プログラム「茨城県コース」を、今年度から製造業にも拡充する予定です。本プログラムにより、技能実習生を県内企業で受入れ、特定技能1号、2号までのステップアップを支援する体制を構築し、本県産業を支える人材の育成・定着を図ってまいります。</li> </ul>
		吉田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一定程度実績が認められる介護人材の「茨城県コース」についてさらに普及を進めるべきと思われる。県内の介護事業所の人材不足やせつかく採用したのにすぐに退職してしまうなどの状況を仄聞するが、県として介護事業所との連携をどのようにお考えかご教示いただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護人材を育成するプログラム「茨城県コース」については、第1期生12名全員が技能実習2号へ移行したほか、第2期生8名全員が実習を開始したところ。</li> <li>・また担当課が異なりますが、海外の日本語学校から県内の介護福祉士養成校へ進学するルートも拡充を行っており、在留資格「介護」の取得により、県内の介護分野で長期にわたり活躍いただけるような取組を行っています。</li> </ul>	
評価できる点	高木委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多言語対応の相談窓口の設置</li> <li>・外国人材受入れのための環境整備</li> </ul>			

11	プロフェッショナル人材戦略拠点運営事業	ご意見・ご質問	清山委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マッチングイベント、トライアルインターンイベントは結果に結びついているでしょうか？</li> <li>・兼業・副業された方の住所地はどこでしょうか？</li> <li>・副業兼業者は、雇用労働者としての本業をお持ちの方でしょうか？</li> <li>・性別と処遇などもお伺いしたいです。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マッチングイベントについては、参加した45名中16名が出展企業に応募しており、マッチング件数に寄与していると認識しております。</li> <li>・トライアルインターンイベントについては、9社17名参加したところ、9社11名が実際のトライアルインターンに進んでおり、企業・人材の双方にとってのお試いの機会を提供できたと認識しております。</li> <li>・把握している限り、副業人材は、東京在住の方が多い傾向にあります。</li> <li>・副業兼業者は、本業で他の企業に雇用されている方も、フリーランスのように活動している方もおり、概ね同数程度です。</li> <li>・性別については、本事業遂行上必要ないため把握しておりません。</li> <li>・採用後のポストは専門職から部課長相当まで幅広く、給与についてもフルタイム採用の場合は年収400～700万円程度、副業の場合は月収4～20万円程度と様々なケースがあります。</li> </ul>
			高木委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マッチングした人材の定着率や成果は？</li> <li>・副業・兼業人材の活用における課題は？</li> <li>・デジタル分野に係る相談対応の具体的な内容と効果は？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルの力を活用し企業の課題の解決を図り、将来にわたって活力ある産業を維持することを目的としており、アウトカムベースのKPIとして本事業により創出されたマッチング件数を位置付けております。</li> <li>・採用後の定着率については、マッチング後も企業訪問等を通じてフォローアップを図っておりますが、マッチングした人材が早期に退職してしまうケースは僅かと認識しています。</li> <li>・マッチングした人材について、常勤の転職では生産性向上及び営業分野の人材が全体の5割程度、副業人材の場合には商品開発やマーケティングなどが4割程度となっております、これらの分野で活躍いただけていると考えております。</li> <li>・副業・兼業人材の活用にあたっては、企業側において副業の現状や活用のメリットを十分認識できていない点が課題となっており、セミナー等を通じて啓発を行うと、マッチングに繋がる例が多くあります。</li> <li>・デジタル分野に係る相談対応については、デジタル人材を活用した経営課題の解決に資するため、企業訪問等に際してデジタル分野の相談件数をKPIとしているものです。デジタル化やDXに資する人材活用セミナーの開催を通じて、企業側のデジタル人材活用意識を掘り起こしたことで、本KPIを達成できたものと考えております。</li> </ul>
			吉田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「プロフェッショナル人材戦略拠点」が重要な役割を果たしているような印象があるが、この拠点の運営実態や拠点をベースとした活動の実態などをご教示いただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「プロフェッショナル人材戦略拠点」は各道府県に1機関設置されるもので、本県では運営を株式会社ひたちなかテクノセンターに委託し、同社内に設置しております。</li> <li>・拠点に配置した戦略マネージャー1名、サブマネージャー6名が、主に企業訪問により企業へプロフェッショナル人材の必要性を周知するとともに、企業が抱える経営課題や人材ニーズを明確化し、民間人材ビジネス事業者へ求人情報を伝達することにより、プロフェッショナル人材と県内企業のマッチングを行っております。</li> </ul>
			評価できる点	高木委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な就業形態に対応したマッチング支援</li> <li>・デジタル分野に係る相談対応の強化</li> </ul>

  

12	UIJターン・地元定着支援強化事業	ご意見・ご質問	清山委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業の採用力強化プログラムに期待しています。中小企業のHPの採用ページは改善の余地が大きい会社が少なくありません。もっと情報発信が必要だと思いますが、なにを情報発信すべきか、どのように情報発信すべきかがよく理解しにくいのだと思います。UIJターンや地元定着に結びつく支援をお願いします。</li> <li>・女子学生の県外流出が問題になっていますが、その要因の一つに、自分たちが出産子育てしながら活躍できる姿と一定水準の処遇を受けられるかが分りづらく不安なのだと思います。不安を払拭できる会社とその情報発信をお願いします。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、講座の中でウェブ上での情報発信について重点的に学べるようにするとともに、その後のフォローアップの中で、企業に対して個別に改善提案を行ってまいります。</li> <li>・別の事業となりますが、県が運営する就職情報サイト「いばらき就職チャレンジナビ」において、各種認定制度を取得した「働き方改革推進企業」や「女性が働きやすい企業」がまとまったページを設けており、引き続き優良企業等の情報発信に努めてまいります。</li> </ul>
			高木委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・UIJターン就職者の定着率や満足度は？</li> <li>・企業の採用力強化プログラムの具体的な成果は？</li> <li>・地域の魅力を伝える情報発信の強化予定はあるか？またある場合はどんな予定か？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内企業等への就職者数は、本県のUIJ事業に協力いただいている県外大学への調査で把握している数値であり、就職後の状況については把握できておりません。</li> <li>・企業の採用力強化プログラムについては、R5年度は特にインターンシップ等の実施について重点的に講義を行ったことで、オープンカンパニーを初めて実施した企業や、説明のみのオープンカンパニーから実務体験付きのプログラムに内容を変更した企業等、多数の企業の採用活動見直しに繋がっております。</li> <li>・県内外の学生に次城の企業の魅力等を広く知っていただくため、今年度新たに卒業年次未満の大学生等向けの、対面形式の業界研究会の実施を予定しております。</li> </ul>
			吉田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本県出身県外大学生のUターン就職者数の把握はとても意義深いですが、R4やR5の実績と達成率の関係が不明（誤っているようにも思える）なので、確認いただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本評価書の達成率については、(実績値-基準値)/(目標値-基準値)で計算をしております。</li> </ul>
			評価できる点	高木委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生から大学生、就職までの継続的な情報発信</li> <li>・企業の採用力強化への取り組み</li> </ul>

13	リスキリング推進事業	ご意見・ご質問	清山委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業人のみを対象にしているようですが、今後失業者や就業希望のある無業者などの未活用労働力（中高年女性が多い）にも対象を拡大される方針でしょうか？ オンライン講座などを受講しやすく基本情報技術者などの資格を取れる方、効果が出る方も一定数いると思われます。こうした未活用労働力の育成は労働生産性の向上とともに労働力不足の解消にも有効な施策です。</li> </ul>	<p>職業訓練においては従来より、再就職を目指す方それぞれの事情やニーズにあわせた多様なコースからなるスキル習得の機会を提供しております。特に、在宅訓練が可能なeラーニングなどの整備にも取り組んでおり、幅広くデジタルスキルを習得できる内容の訓練を取り入れております。</p> <p>リスキリング推進事業においては、AIマッチングシステムの結果を活用して、キャリアコンサルタントの資格を持つリスキリングアドバイザーがキャリア相談にも応じることができる仕組みとしております。こうした支援により未活用労働力の育成につなげてまいりたいと考えております。</p>
			高木委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リスキリング推進宣言企業の具体的な取り組み内容は？</li> <li>・県認定講座の内容と受講者の満足度は？</li> <li>・リスキリングの必要性に関する啓発活動の予定はあるか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リスキリング推進宣言企業は①「リスキリングの方針決定・体制整備」②「リスキリングの環境の整備」③「スキル習得機会の提供」④「評価・処遇の改善」のリスキリング推進における4つのステップについて宣言目標を掲げており、生産性の向上や新分野への進出、従業員の処遇改善に向けたリスキリングの取り組みを行っています。</li> <li>・「事例企業見学が良く、実際に製造業の現場でデジタルを取り入れている様子を生で見学することができて、貴重な経験になった」「実際に自分たちで業務の課題を見つけ、それをデジタルツールで解決するプロセスを学ぶことができた」など、業務に活かせる実践的なスキルを身に付けることができたとの感想を多くいただきました。</li> <li>・リスキリングの必要性を講義とグループワークを通して学ぶワークショップと、先端的にリスキリングに取り組む企業の表彰や取り組み事例を発信するシンポジウムを実施する予定です。また、ポータルサイトにおいて、県内企業の先進事例を発信していくことにより、リスキリングの必要性を広めていきたいと思っております。</li> </ul>
			吉田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リスキリングの推進は県の行う事務として非常に意義深いと思われるが、それを推進する上では、民間企業（主要企業）などの推進協議会等を立ち上げ（もしかして既に立ち上げているかも）、企業などの意見を積極的に取り入れ、また、その対象者のニーズを十分に把握していくことが必要と思われるがどのような取組についての方針などはあるのかご教示いただきたい。</li> </ul>	<p>2023年1月に産業界、教育機関、行政から構成される「茨城県リスキリング推進協議会」を設置し、第一回協議会を開催して以降、幹事会やIT人材ワーキング会議を通して、積極的に議論を進め、2023年10月に「政策パッケージ」として取りまとめております。また、県施策を展開していくにあたり、企業訪問によるヒアリングも実施し、リスキリングの取組み状況やスキル習得におけるニーズの把握にも努めております。</p>
評価できる点	高木委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リスキリング推進宣言制度の創設</li> <li>・AIマッチングシステムの構築</li> </ul>			
14	ビジット茨城・DX誘客促進事業	ご意見・ご質問	清山委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光ツアーの催行件数が急進するなど頑張って成果を上げていらっしゃると思います。個人旅行者の取り込みや県中心部だけでなく、県北など各地への外国人来訪者を誘導する仕掛け、体験型プラン等の普及による一人あたり消費額の伸びを期待したいです。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人旅行者を取り込むため、訪日旅行が見込めるフェイスブックユーザーに対してターゲティング広告を実施するなど、デジタルマーケティングに取り組むことにより、外国人の旅行動向を分析し、ニーズを踏まえたプロモーションを展開していく。</li> <li>・サイクリングやゴルフなど本県の強みを活かした誘客促進に取り組むことにより、県内各地域へのインバウンド需要の拡大と定着を図り、観光消費額の増加につなげていく。</li> </ul>
			高木委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルプラットフォームの具体的な活用状況と効果は？</li> </ul>	<p>WEBサイト「IBARAKI GUIDE」において、県内を周遊するモデルコースを紹介するとともに、紹介している観光施設や飲食店、レンタカーなどの予約・販売整備を進め、個人旅行者の誘客促進と利便性の向上に努めている。</p> <p>【WEBサイトのページビュー】2022年 321,454/2023年 571,997</p>
		評価できる点	高木委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル技術を活用したプラットフォームの構築</li> <li>・データに基づくマーケティング戦略の展開</li> </ul>	
15	ポストコロナ観光消費拡大事業	ご意見・ご質問	清山委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験王国のプロモーションはTVや駅での露出などで茨城の観光地としての魅力を伝えられている用い思います。ワーケーションの事例はどちらかというテレワークというよりは、企業の研修？旅行的なものを中心でしょうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県が主に狙うワーケーションは、企業が研修等の位置づけで実施するものである。本事業では「海・山・川・湖」など様々なフィールドで自然や食が体験ができる、いばらき「ならでは」のワーケーションを企業へ提案し、ワーケーションの本県への誘致を進める。</li> </ul>
			高木委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たに開発された観光コンテンツの具体例と効果は？</li> <li>・DCの効果と今後の展開は？</li> <li>・開発されたコンテンツの持続性はどうか？現状を知りたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アウトドアにおいては、サウナ、SUP等のコンテンツに加え、トレッキングとバックラフト（持ち運び可能なカヌー）を組み合わせたツアー、チームで力を合わせてアスレチックをクリアするチームビルディング等の特徴あるコンテンツが開発され、過去2年間で計2408人の集客を記録した。</li> <li>・加えて、DCに向けて市町村や地域の観光事業者等におけるコンテンツ開発の促進・支援に取組み、海の波を光で演出する「NIGHT WAVE 海のイルミネーション in 大洗」（来場者数 R5：40,000人 R4：32,000人）や春風萬里荘で施設の歴史にちなんだ高級料理を楽しむ高級ツアー「春風萬里荘 美食の会」（参加者数：59人（全3回）※キャンセル待ち発生）など、集客力のある企画も生まれた。</li> <li>・昨年のDC期間中（10月～12月）の体験企画や地域イベントには552万人の参加があり、観光消費額も過去最高の値となるなど、本県観光の振興に大きな効果があったと認識している。</li> <li>・この盛り上げりを維持・発展させるべく、インバウンドも視野に入れた「稼げるコンテンツづくり」と「攻めのプロモーション」に引き続き取り組んでいく。</li> <li>・過去2年間で開発されたアウトドアコンテンツの中には、自走化したものもあった一方で、集客や収益等に課題が残ったものもあった。これらのコンテンツが持続されるよう、専門家等とのコンテンツの見直しやプロモーションを行う事業を令和6年度に実施する。</li> <li>・DCを契機に開発されたコンテンツについても、同様に課題や改善点があった企画も存在するため、さらなる磨き上げを図るべく、引き続き、機会を捉えて市町村や地域の観光事業者等への情報共有や助言、提案を行っていく。</li> </ul>
		評価できる点	高木委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食体験とアウトドア体験を軸とした観光産業の形成</li> <li>・大型キャンペーンを活用したプロモーション</li> </ul>	

16	アクアワールド茨城県大洗水族館魅力向上事業	ご意見・ご質問	清山委員 ・水族館のリニューアル、ナイトツアー、入場料値上げなどで入館者数の増加と収益の増大を両立させ黒字化できたことは良い成果だと思います。	引き続き、新たな魅力の継続的な発信に努めるとともに、安定的な経営により利益を確保し、地域の観光拠点や教養施設としての役割を担ってまいります。
		ご意見・ご質問	高木委員 ・夜間入館者数が目標に達していない理由と対策は？ ・リニューアル後の来場者層の変化は？ ・他の観光施設との連携を強化し、地域全体の魅力向上につなげると良いのでは？	・当該交付金での整備後、令和3年度、令和4年度は、入館者数を伸ばしてきたが、令和5年度に入り、入館者数の伸びが鈍化してきたことから、目標達成に向けた課題を内容の魅力向上や昼の展示との差別化と捉え、令和5年12月に夜間イルカショーの刷新や水槽展示の工夫などにより、夜間営業のリニューアルを行い、更なる集客に努めており、入館者数は増加傾向にある。 また、ターゲット層としている20代に効果的な周知を図るため、SNSによる広告やWEB記事掲載のためのPR会社と契約するなど、紙媒体からWEB媒体中心の広報に力を入れているところ。 引き続き、可変性のある新しい魅力の発信に努めてまいります。  ・来場者層について、リニューアル前後では、20代が全体の7%（R1）から26%（R6）となり、来場者層の若年化を進めることができた。今後もターゲットを意識した誘客促進を図っていくことしたい。  ・他の観光施設との連携については、国営ひたち海浜公園やいばらきフラワーパークとコラボした、ネモフィラやバラの花畑を再現した水槽を展示するなどの特別展を実施しているところ。また、今年10月には、地元酒蔵などと連携し、夜の水族館で地元のお酒などを楽しめる「宴夜」を3年ぶりに開催する予定であり、引き続き、地域の観光拠点として、全体の魅力向上に努めてまいります。
		評価できる点	高木委員 ・夜間営業の開始など新たな魅力創出への取り組み ・リニューアルによる入館者数の増加	
17	つくば創業プラザ分室整備事業	ご意見・ご質問	清山委員 ・KPIの指標が成果を映し出すものとして適切か？雇用数も企業数も伸びているとはいいたい。これに対してビジネスプランの策定件数の方が結果を反映しているように見える。このビジネスプランは滞りなく実施されたか、また実施後の収益性はいかがでしょうか？	KPIの指標は、第2期「茨城県まち・ひと・しごと創生総合戦略」においても、雇用創出数を数値目標としているため、本KPIでも雇用者の増を設定しております。また、入居企業については5年間の入れ替わりで合計11社入居しており、一定の成果があったと考えております。 つくば市内のより大きなラボ・オフィスに移転している企業もいることから、策定支援をしているビジネスプランが実施され、資金調達がうまくいき、事業拡大した結果だと考えております。
		ご意見・ご質問	高木委員 ・入居企業の成長や成功事例は？ ・地域経済への波及効果は？	・入居企業で大型の資金調達やライセンス契約を締結するベンチャー企業が誕生しております。資金調達がうまくいった結果、事業を拡大し、つくば市内のより大きなオフィス・ラボに移転している企業がございます。 ・県内外の投資家などからベンチャー企業が投資を受け、事業を拡大することで地域への一定の波及効果があると考えております。例えば、ベンチャー企業を支援することで、その周辺の関係企業や投資家に対しても好影響を与え、イノベーションを創出する力が地域で高まっていくと考えております。
		評価できる点	高木委員 ・ベンチャー企業向けの廉価なオフィス提供 ・インキュベーションマネージャーによる支援体制	
18	茨城県産業技術イノベーションセンター基盤技術試験棟整備事業	ご意見・ご質問	清山委員 ・今年度、共同研究などが製品化・実用化を実現できそうですでしょうか。期待しています。	昨年度実施した共同研究の製品化・実用化を目指し、引き続き以下の技術支援等を実施いたします。 ・「炭化ケイ素繊維の量産製造技術に関する研究」「スポーツ用品の材料特性に関する研究」に関して、製品化実用化に向けた技術課題を解決するための共同研究を実施 ・県内企業とともに軽金属材料を用いた小型衛星用部品を開発し、その製品化を推進
		ご意見・ご質問	高木委員 ・研究成果の地域企業への普及・展開のさらなる強化の予定はあるか？	今年度より、地域企業等と連携して取組む基盤研究を始めており、その研究成果を、適宜、地域企業へ普及・展開する予定です。 また、プレスリリースや学会発表等により地域企業へ研究成果を積極的に周知することで、研究成果の更なる普及・展開を図ってまいります。
		評価できる点	高木委員 ・素材開発のための共同研究体制の整備 ・炭化ケイ素繊維の量産化に向けた取り組み	

19	さつまいも先進的生産技術研究拠点整備事業	ご意見・ご質問	清山委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さつまいもについては取扱金額、栽培面積とも目標を上回り成果を上げていると思います。園芸品目産出額や新規就農者数などは本事業のKPIとして適切ではないと思います。</li> </ul>	<p>KPIの①園芸品目産出額、②新規就農者数は、設定当初に茨城県まち・ひと・しごと総合戦略の「農林水産業の成長産業化」に関する従業業績指標から算出してありますが、一昨年によりきめ細やかな目標・実績を設定するようご意見をいただき、KPI③～⑤を追加した経緯があります。その際、ご指摘いただいていることはごもっともでございますが、県政策を色濃く反映した当初設定のKPI①、②も動向を注視すべきであろうという考えから、そのまま残すこととしました。</p>
		ご意見・ご質問	高木委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究成果の生産者への普及状況は？</li> <li>・研究成果の実用化と普及を加速させるための体制強化が必要と思うが、現状や予定はどうか？</li> </ul>	<p>内部褐変症の成果については随時、普及指導員に情報提供を行っております。一方で、現時点では対策技術として公表する段階まで至っていないため試験を継続しております。今後、得られた研究成果については、主要成果としてとりまとめ研究所のホームページに公表するとともに、県内で広く普及が見込まれる成果については農業総合センター専門技術指導員室で普及計画を作成し、研究成果の普及推進をはかる予定です。</p>
		評価できる点	高木委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内部褐変症の発生メカニズム解明への取り組み</li> <li>・非破壊でのデンプン含量推定方法の開発</li> </ul>	
20	茨城県フラワーパークワークショップ施設整備事業	ご意見・ご質問	清山委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークショップ体験者数は目標値を大きく上回るのに体験料収入が下回るのは価格設定などに問題があるのではないのでしょうか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初めての来園者にも手軽にいばらきフラワーパークのワークショップの魅力に触れていただけるよう、短時間で楽しめる500円程度の比較的安価なアクティビティを用意しており（例えば、アロマミスト作りやポタニカルポストカード作りなど）、これらが幅広い人気を得ている。</li> <li>一方で、草花の花摘み体験（2,500円）等、価格帯の高いアクティビティも利用者から好評であり、1人当たりのワークショップ体験収入は、前年度と比較して約2%増加している。</li> <li>また、新たに、フローリストと楽しむスワッグ作り（8,000円）等の更に高い価格帯のアクティビティを企画するなど、体験料収入の一層の増加に向けた取り組みを進めていく。</li> </ul>
		ご意見・ご質問	高木委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークショップ参加者数の目標達成要因は？</li> <li>・地域経済への波及効果は？</li> <li>・地域の特産品や文化、ほか事業などと連携したワークショッププログラムの造成の予定はあるか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初めての来園者はもちろん、何度も来園されている方にも訪れるたびに楽しんでいただけるよう、園内の草花や自然を活用した、四季折々のプログラムにより、年間100を超える多彩なアクティビティを開催している。このことが多くの来園者にご利用いただいている一因と考えている。</li> <li>様々な地元団体等と連携して、マルシェ等のワークショップイベントを定期的で開催しており、これらは地域経済の担い手である生産者や作家等の活動の場としても活用されている。</li> <li>今年度から、地域で活躍するアーティストが出演するコンサートでは、楽器や作品を題材としたワークショップを開催し、「聞く」だけでなく、アーティストや音楽を身近に感じられるプログラムにも取り組んでいる。今後も、この地域ならではの魅力的な資源を活かしたワークショップの展開に努めていく。</li> </ul>
		評価できる点	高木委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークショップ体験料収入の目標達成</li> <li>・地域の産業と観光を結びつける取り組み</li> </ul>	
21	茨城県フラワーパーク振興対策事業	ご意見・ご質問	清山委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リニューアル後の魅力、年間を通じた魅力の周知による来園者増が不可欠だと思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通じて楽しんでいただけるフラワーパークとなるよう、夜間イベントや子供向けコンテンツの強化など新しい魅力作りにチャレンジし続けるとともに、SNS等を活用した効果的な情報発信により、来園者数の増加に取り組んでいく。</li> </ul>
		ご意見・ご質問	高木委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リニューアル後の来場者層の変化は？</li> <li>・年間入園者数が目標に達していない理由と対策は？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リニューアル後は、若年層や女性グループ、県外からの来園が増加している。</li> <li>・夏の記録的な猛暑の影響等により、来園者数が伸び悩んだため、今後は、猛暑対策として夜間イベントなど夏季の集客コンテンツの充実を図るほか、春秋の花の豊かな時期の効果的なPR、冬季のイベント強化等年間を通して、誘客促進に一層努めていく。</li> </ul>
		評価できる点	高木委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リニューアルによる入園者数の増加</li> <li>・イベントの多様化による誘客促進</li> </ul>	